

愛知東邦大学 シラバス

開講年度(Year)	2024年度	開講期(Semester)	後期
授業科目名(Course name)	東邦プロジェクトA		
担当者(Instructors)	石渡 靖之	配当年次(Dividend year)	1
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	選択

■授業の目的と概要(Course purpose/outline)

スポーツの一面である「支えるスポーツ」、スポーツボランティアを演習する授業である。受講者には、(公財)日本サッカー協会公認のサッカー4級審判資格を取得してもらい、その上で授業でサッカー審判を行う上での知識・技能を身につけ、実際に中学生年代のサッカーの審判(主審)ボランティア演習を行う。また、併せてスポーツボランティアに必要な知識・技能を理解し、授業後でも進んでサッカー審判等のボランティア活動を継続するボランティアマインドの育成を図る。なお、受講者代表の学生には、例年2月上旬に開催される「地域と連携した授業・活動報告会」で活動内容について発表してもらう。本授業受講者には授業外で必ず(公財)日本サッカー協会公認のサッカー4級審判資格を取得してもらうので、5,600円の受講料(ルールブック代、サッカー協会登録料を含む。金額は2023年度のもの)が必要となる。(既にサッカー審判資格4級を高校時代に取得済みで2024年度の審判資格更新手続きを行っている場合は除く)この資格を取得した上で審判ボランティア演習を行うことになる。なお、審判ボランティア演習は、試合日の関係で土日などの週休日に行われることを予め理解し、参加してもらう必要がある。履修にあたって、本授業では、サッカー4級審判資格の取得び審判ボランティア演習はセットであり、この両方ができる意欲があり、休まず授業に出席できる学生に受講してもらいたい。また、受講者としては授業の性質上サッカー経験者が望ましい。しかしながら、サッカー経験が無くてもスポーツ活動の経験者でスポーツボランティアに興味があり、サッカー審判資格を取得し、審判ボランティアを是非行ってみたいという意欲がある者であれば受講は可能である。サッカー審判資格は年度更新であり、受講後も各年代のサッカーに携わることが出来るとともに、将来のスポーツ指導者としての活動やスポーツボランティア活動を通じてやりがいや生きがいを感じながら生活を送ることに繋がるものとする。

■授業形態・授業の方法(Class form)

授業形態(Class form)	演習
授業の方法(Class method)	授業の進め方は講義を中心に行う。また、別途日本サッカー協会公認の講習会を受講し、サッカー審判資格4級を取得してもらう。実際の審判ボランティア活動を行う上で、サッカー審判の実際の動きや判定に関しては、映像資料を用いて学生個々にどのように判定を下すかを考えさせる。また、受講者にはサッカー、ボランティア、審判などテーマを自身で設定し、自身で作成した映像資料等を使って発表を必ず1回行う。講義や研修会で修得した審判資格に基づき、身につけた知識・技能を発揮して、実際に12月2週末または3週末に行われる予定の中学生年代のサッカー大会の試合の審判(主審)ボランティア演習を行う。

■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)

回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	オリエンテーション	本授業の目的と到達目標の確認などを行う。 (公財)日本サッカー協会のJFA IDの取得、サッカー審判資格講習会の受講申し込み	<input type="checkbox"/>
第2回	サッカー審判の役割と育成 審判ボランティアの概要	サッカー審判資格制度について 審判活動及び審判ボランティア活動について	<input type="checkbox"/>
第3回	サッカー競技規則について(1)	2024/25サッカー競技規則の第1条~10条までの内容を理解する。	<input type="checkbox"/>
第4回	サッカー競技規則について(2)	サッカー競技規則第11条~17条の内容を理解する。 本年度の競技規則改正内容等について理解する。	<input type="checkbox"/>
第5回	サッカー審判試合中の動きと活動(1)	試合中の主審の動きと活動について キッカーと壁の間の距離についての演習	<input type="checkbox"/>
第6回	サッカー審判試合中の動きと活動(2)	試合中の主審及び線審の動きと活動について(ピッチ内の主審の基本的な動き方及びアクション、線審の動き方とアクションについて映像資料を用いて理解を深める。)	<input type="checkbox"/>
第7回	サッカー審判試合中の動きと活動(3)	主審と副審及び第4審との連携について 反則についての理解(直接FKか間接FKか) DOGSO(Denying Obviously Goal Scoring Opportunity)について	<input type="checkbox"/>
第8回	サッカー審判活動の意義とやりがいについて(ゲストスピーカー授業)	ゲストスピーカーが審判としての心構え、トラブルへの対応等について様々な経験に基づき、講義を行う。(ゲストスピーカーの都合により授業回は前後する場合あり)	<input type="checkbox"/>

第9回	フェアプレイとスポーツマンシップについて(1)	フェアプレイとスポーツマンシップについての理解 主審及び副審(線審、第4審判)として試合においてフェアプレイとスポーツマンシップをどのように実現していくかについての考察を行う。	<input type="checkbox"/>
第10回	フェアプレイとスポーツマンシップについて(2)	ウェルフェアオフィサーとは ウェルフェアオフィサーとの連携(安全・安心で快適なサッカー環境の構築について)	<input type="checkbox"/>
第11回	審判ボランティア演習実施に向けて(1)	サッカー競技規則の確認、審判活動の実践的ガイドラインについて オフサイドについての理解(映像資料を用いて理解を深める。)	<input type="checkbox"/>
第12回	審判ボランティア演習実施に向けて(2)	審判ボランティア演習直前の注意事項 審判を行う上での動きの確認及び試合運営上の注意点について	<input type="checkbox"/>
第13回	審判ボランティア演習(土・または日)	審判ボランティア演習 中学生年代のサッカー試合の主審を行う。	<input type="checkbox"/>
第14回	授業内テスト	2024/25サッカー競技規則の理解テスト(審判員としてルールの理解の確認)(3級資格取得に向けた内容)	<input type="checkbox"/>
第15回	講義のまとめ(スポーツボランティアについて) レポート作成	審判ボランティア演習に関する総括 審判ボランティアの現状と今後の活動について スポーツボランティアの現状と今後のスポーツボランティア活動について	<input type="checkbox"/>

■授業時間外学習(予習・復習)の内容(Preparation/review details)

本授業受講者は、授業時間外で愛知県サッカー協会審判委員会の協力の下、本授業受講者限定の(公財)日本サッカー協会公認のサッカー4級審判資格講習会を受講し、当該資格を取得してまいります。講習会受講前に(公財)日本サッカー協会より講習会事前課題が5題課され、講習会時に解答を求められる。なお、受講料として5,600円(ルールブック、審判資格登録料を含む 金額は2023年度のもの 変更の場合あり)の負担が必要です。事前学習として、サッカー競技規則を読み、ルールに精通しておくことが求められます。更には、様々なケースに関する競技規則の適用事例を考えてまいります。(毎回2時間程度の事前学習を要する。)また、毎授業では、具体的な試合の様々な場面における判定を主審の立場で下してもらうことになるので、ルールの理解と瞬時の判断を求める意見交換を行い、自分の判断を記入した授業プリントの作成を課します。また、サッカーをよく理解しないと審判も行えないことから、サッカーに関する戦術やシステムについても学びます。更に事後学習として、指示されたYouTubeの映像等を視聴し、主審の立場で判定を下す学習課題の作成などの課題を課します。審判ボランティア演習実施後には、自身の審判活動及び自身とペアを組んだ審判の活動内容に関する報告書を作成してまいります。また、ゲストスピーカー授業後にはレポート提出を課します。授業時間内で競技規則の理解に関するテストを行います。最終講義後には自身の活動を振り返るとともにスポーツボランティア全般を概観したレポート提出を課します。(事後学習として毎回2時間程度を要する。)

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

毎回の授業で提出した授業プリントは、コメントを加えフィードバックします。また、事後学習で提出された学習課題も同様にフィードバックします。

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)

区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
主体性	◆ 2019全学共通DP3	サッカー審判ボランティア活動を通じて、多様な価値観を共有し、主体的かつ自発的に他の審判員や関係者等と協働してスムーズかつ安全に試合を進行し、地域及び中学生年代のスポーツ活動に貢献できる。

■成績評価(Evaluation method)

筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験(in-class exam)	その他(Other)
			100%	

授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)

毎回の授業で提出する授業プリント及び授業課題、実際の審判ボランティア演習実施後には、審判報告書の提出を課す。また、ゲストスピーカーの授業では、ゲストスピーカーの講義内容に関する課題レポートの提出を課します。第14回授業では、ルールの理解を確認し、3級審判資格に昇級するために必要なサッカー競技規則テストを行います。第15回授業では、授業を総括した審判ボランティア活動並びにスポーツボランティアに関する課題レポートの提出を課します。これらの提出物に加えて、実際の審判ボランティア演習の活動状況を加えて評価する。なお、授業外で取得していただく(公財)日本サッカー協会公認のサッカー4級審判資格取得は本授業を評価する上での前提です。

■テキスト(Textbooks)

No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN (ISBN)

1	なし	
2		
3		
4		
5		

■参考図書(references books)

No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	(公財) 日本サッカー協会発行：「サッカー競技規則 (2024/25)」	
2	松崎康弘 (著)：「2019年改訂版ポジティブ・レフェリング」：株式会社デコ	978-4-906905-18-8
3	山口泰雄 (編)：「スポーツボランティアへの招待」：世界思想社	4-7907-1052-1
4	二宮雅也 (著)：「スポーツボランティア読本」：悠光堂	978-4-906873-84-5
5	岡田武史 (著)：「岡田メソッド」：英治出版	978-4-86276-291-7